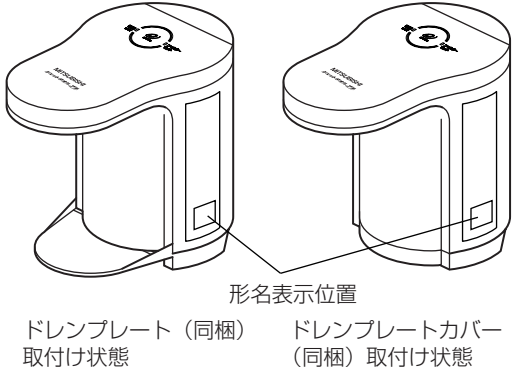
MITSUBISHI

0904874HJ3602

ハンドドライヤー ジェットタオル プチ
形 名
JT-PC105B（100V仕様）

業務用

販売店・工事店さま用

据付工事説明書

■据付工事を始める前に必ずこの据付工事説明書をお読みになり、正しく安全に取付てください。
■据付工事は販売店さま、または専門の工事店さまが実施してください。
■据付工事手順を守って取付けてください。（安全や機能の確保ができません）

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。

■プチスタンド［壁取付部材］（形名：JP-P02KS-W、別売）を使用して設置する場合は、事前に別紙の据付準備説明書をご覧ください。

もくじ

安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

警告　誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

表示	内容
禁止	**●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に折り曲げたり、引張ったり、ねじったり、たばねたり、薬品をかけたりしない。また、重いものをのせたり、はさみ込んだりしない** 電源線が破損し、火災、感電の原因になります。
分解禁止	**●改造や分解はしない** 火災･感電･けがの原因になります。
風呂･シャワー室での使用禁止	**●浴室など湿気の多い場所や、結露する場所には取付けない** 感電、けがの原因になります。
指示に従い必ず行う	**●本体の取付工事は、十分強度のあるところを選んでネジを使って確実に固定する** 落下によりけが、感電をするおそれがあります。

指示に従い必ず行う

●厨房には設置しない
油吸込みによる故障の原因になります。

●交流100Vを使用する
間違った電源を使用すると火災、感電、故障の原因になります。

●塩害地域および腐食性ガス、中性ガス、還元性ガスが存在する場所には取付けない
故障の原因になります。

●15A以上のコンセントを単独で使用する
他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。

●ほこりの多い場所には設置しない
ほこり吸込みによる故障の原因になります。

●漏電しゃ断器を必ず取付ける
取付けないと感電するおそれがあります。
※漏電しゃ断器推奨品（地絡保護用）
三菱電機NV-G2N
（単層2線式、定格電圧AC100-200V両用定格電流30A、定格感度電流15mAタイプ）

注意　誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

指示に従い必ず行う

●指定の材質（人造大理石、ポストフォーム、ムク材、エポキシ樹脂）以外のカウンターには取付けない
落下によりけが、感電をするおそれがあります。

●吸気口が塞がるような位置に設置しない
吸込負荷によりモーター故障の原因になるおそれがあります。

●取付けの際は手袋を着用する
着用しないとけがをするおそれがあります。

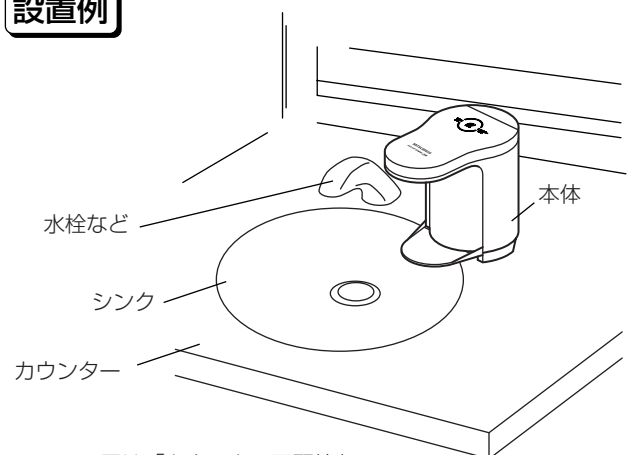
●電源コードは吸引口内に入れない
電源コードが傷つくと漏電による感電、ショートによる火災のおそれがあります。

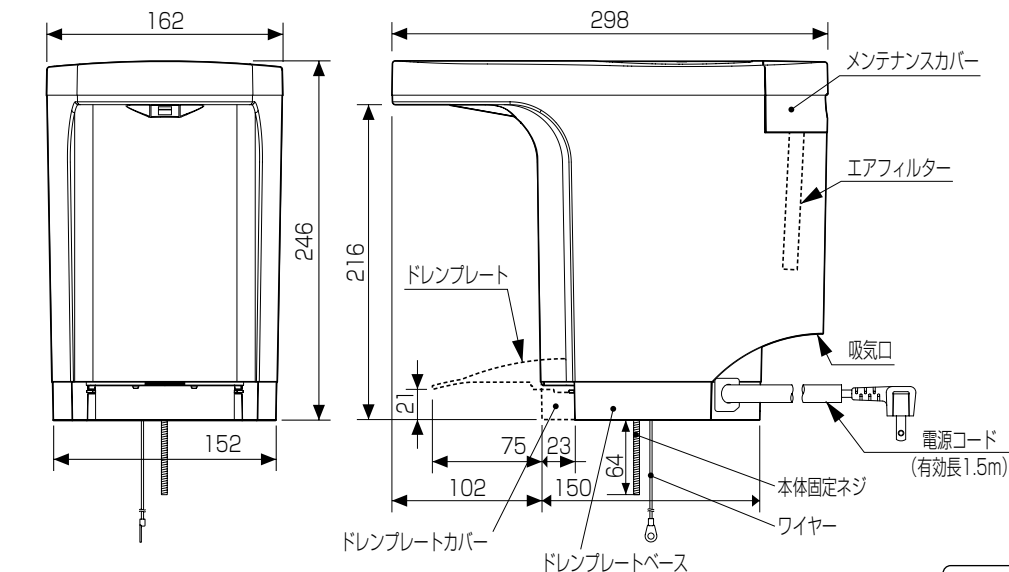
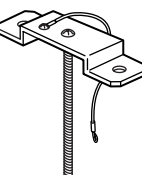
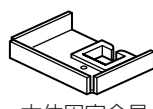
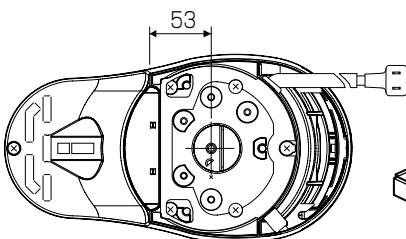
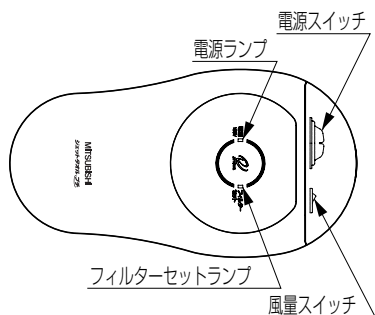
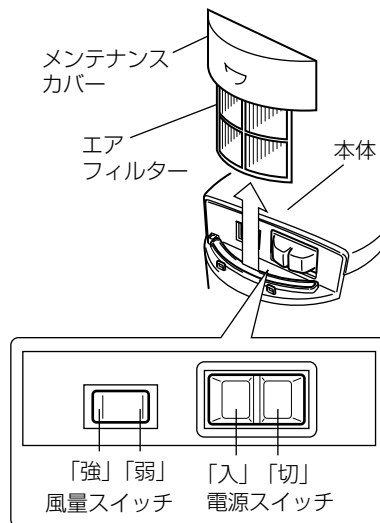
家庭用洗面台への設置について

●本製品は業務用ですが、手洗いに使用する場合のみ、ご家庭の洗面台への設置が可能です。

●下記の用途として使用される洗面台への設置は、けがや製品の故障につながるおそれがあるため、設置しないでください。

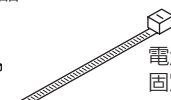
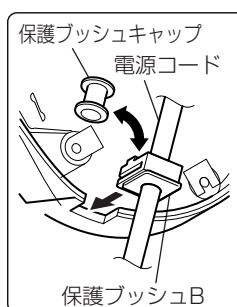
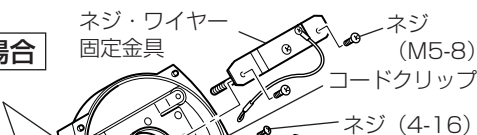
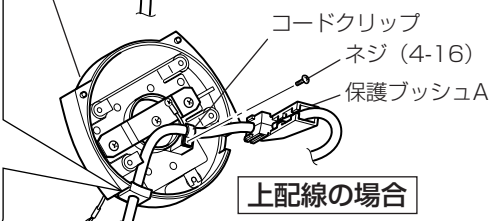
- **洗髪、洗顔をする洗面台**
（腕や頭部を検知して動作するおそれがあります）
- **湯気が発生する洗面台**
（湯気を検知して動作するおそれがあります）
- **シンクに水を溜めたり、シンクの上でバケツなどに水を溜めて使用する洗面台**
（溜めた水が飛び散るおそれがあります）
- **小さなお子さまがご使用になる洗面台**
（腕や頭部を検知して動作するおそれがあります）

設置例

※図は「カウンター下配線」での設置イメージです

各部のなまえと外径寸法図

付属部品

ドレンプレートベース……………1ヶ
ネジ・ワイヤー固定金具…………1ヶ
本体固定金具………………………1ヶ
ネジ・ワイヤー固定金具取付ネジM5-8
…………………………………………2本
コードクリップ･ドレンプレート固定ネジ4-16
…………………………………………6本
スプリングワッシャー組込ネジM4-8…1本
壁固定クリップ取付木ネジ4.1-16……1本
スプリングワッシャー……………1ヶ
フランジ付ナット…………………1ヶ
型紙…………………………………1枚
位置決め用部品……………………1ヶ
保護ブッシュA……………………1ヶ
保護ブッシュB……………………1ヶ
保護ブッシュキャップ……………1ヶ
電源コード固定クランプ…………2ヶ
電源コード固定バンド……………1ヶ
電源コード壁固定クリップ………1ヶ

施工に必要な工具など

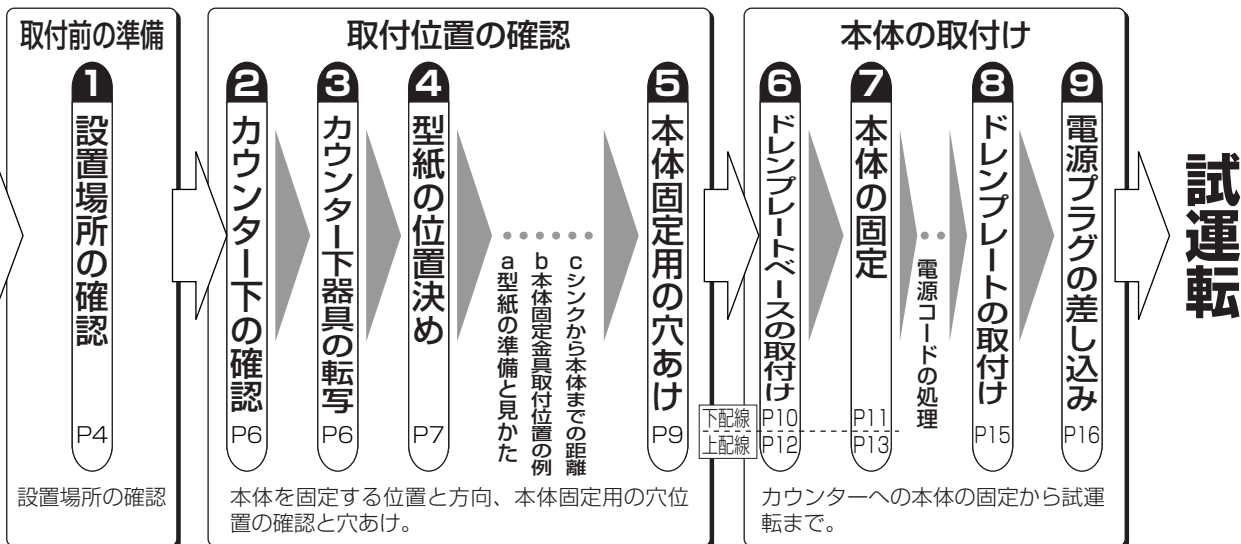
- φ40～42ホルソー（電源コード下配線用）、またはφ7～8ドリル（電源コード上配線用）
- ドライバー（＋）
- 電気ドリル
- テープ（本体位置の目印に使います）
- 鉛筆、消しゴム（本体固定の障害を避けるためにカウンター上にカウンター下の状態を書きます）
- メジャー
- スパナ（呼び寸法8）…………………1本

※保護ブッシュBと保護ブッシュキャップはドレンプレートベースに取付けられています。

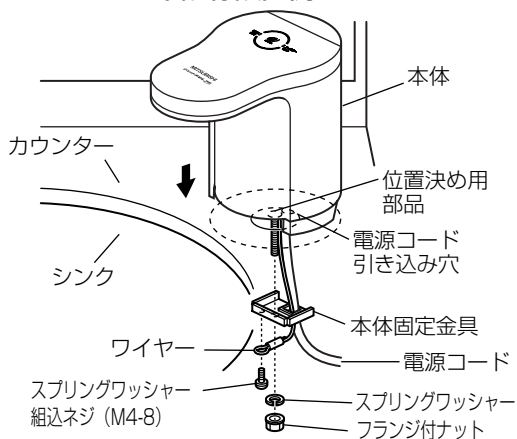
施工全体のながれ

警告　●**本体は平らな場所に設置する**
不安定な状態で設置すると転倒し、けがや感電をするおそれがあります。

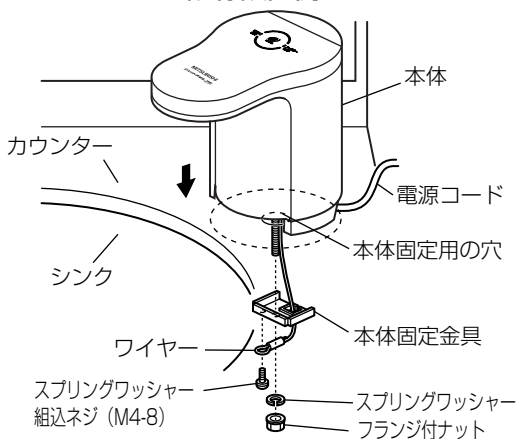
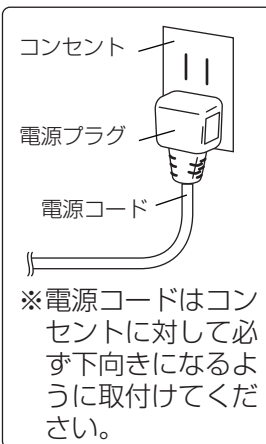
ご注意

- **本製品の取付けには、本体固定用としてカウンターに貫通穴をあける必要があります。**
- **シンクやカウンター固定部材などの破損防止のため、型紙は手順どおり正しく使用してください。**
- **型紙の裏表には注意してください。**

●本製品は設置の方法を「カウンター下配線で設置する（P10,11）」「カウンター上配線で設置する（P12,13）」「プチスタンド［壁取付部材］（形名：JP-P02KS-W、別売）を使用する場合 別紙 」から選択できます。

■ 施工イメージ

●**カウンター下配線設置例**

●**カウンター上配線設置例**

電源プラグの差し込み

※電源コードはコンセントに対して必ず下向きになるように取付けてください。

取付前の確認

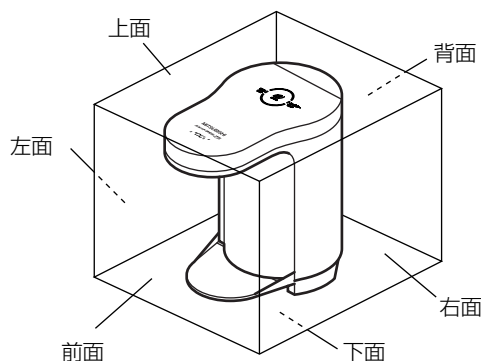
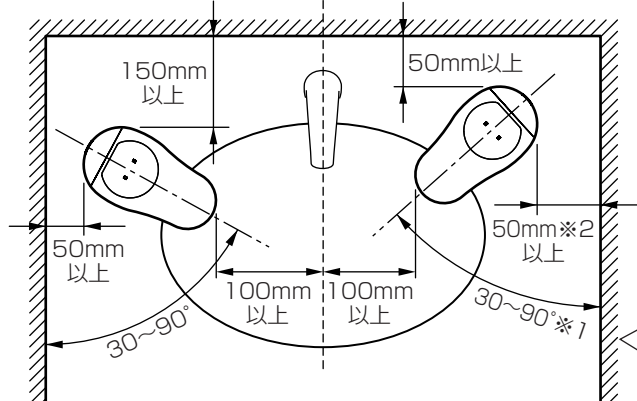
1 設置場所の確認

■カウンター材質
次の材質以外のカウンターには取付けない
・人造大理石
・ポストフォーム
・ムク材
・エポキシ樹脂
厚み40mm以下

■コンセントまでの離隔距離の確認
1.5mの電源コードが取付けられる距離にコンセントがあるか確認してください。
※電源コードが取付けられる距離にない場合は電気工事が必要となります。

お願い ●**次のような場所には取付けないでください。**

- **0℃未満になる場所**　●**40℃以上になる場所**　●**家庭**※
- **厨房**（油吸込みによる発火のおそれがあります）
- **日光、スポット照明、殺菌灯、強い光があたる場所**（センサーが誤動作するおそれがあります）
- **食材・食器等の近く**（水滴がかかるおそれがあります）
- **腐食性（酸、アルカリなど）・中性・還元性ガスのあるところ**（機械の寿命が短くなったり、故障の原因となります）
- **結露する場所**　●**塩害地域**　●**ほこりの多い場所**　●**温泉施設**

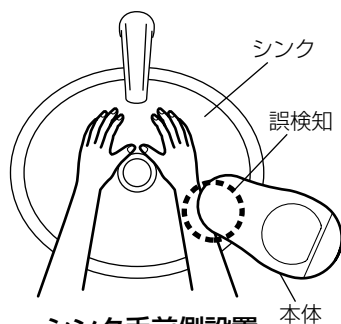
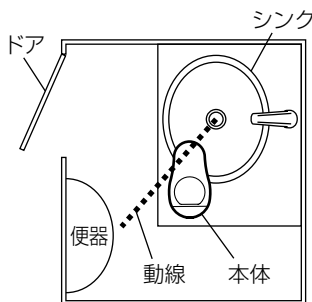
※手洗いに使用する場合のみ、ご家庭の洗面台への設置が可能です。P2

型紙をカウンター上に置いて確認してください。
・型紙の準備と見かた P7 a.

※製品と壁面の角度30°（※1）を保てない場合は、壁面からの空間離隔距離（※2）を150mm以上に保ってください。

■設置場所確保の確認

●壁面、障害物などからの空間離隔距離は、表に掲げる数値以上の距離を保ってください。

場所	離隔距離
上方	開放
前方	開放
側方、後方	左図参照

●手洗時に手を検知して製品が動作することを防止するため、水栓から100mm以上の空間離隔距離を保ってください。

●手動式水栓では、給水ハンドル操作時に手を検知して製品が動作することを防止するため、給水ハンドルの反対側に製品を設置してください。
ただし、シンク両側に給水ハンドルがある場合は製品をシンク左側に設置してください。
例：給水ハンドルがシンク右側のみにある場合、製品をシンク左側に設置

• シンク手前側設置　• 移動動線内設置

■禁止取付け位置

センサーの誤検知防止のため、下記場所へは設置しないでください。

- **シンク手前側設置**
- **移動動線内設置**

※シンクの手前側に設置した場合や、洗面カウンターへの移動動線内に設置した場合、手洗いの時に腕や袖などがセンサー検知範囲内に入り、誤検知する可能性があります。

カウンターの詳細説明

カウンターには大きく分けて3種類の方式があります。

●シンクがカウンターよりも上側に設置してあるものを**オーバーカウンター式**、カウンターと同じ高さに配置してあるものを**フレーム方式**、カウンターよりも下側に配置してあるものを**アンダーカウンター式**といいます。

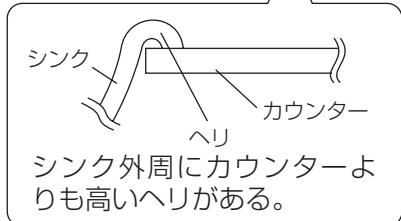
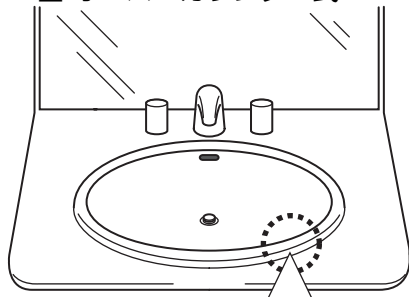
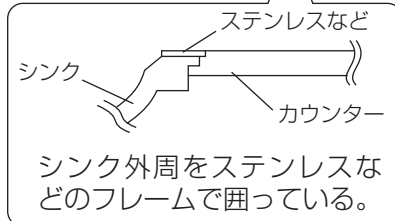
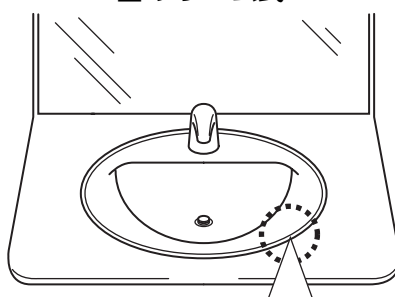
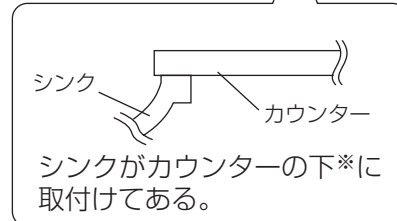
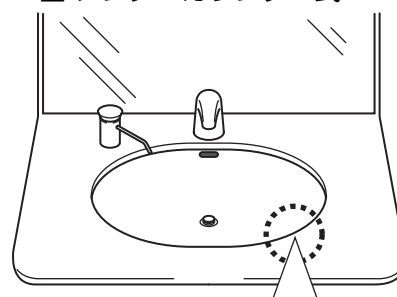
■ オーバーカウンター式

シンク外周にカウンターよりも高いヘリがある。

■ フレーム式

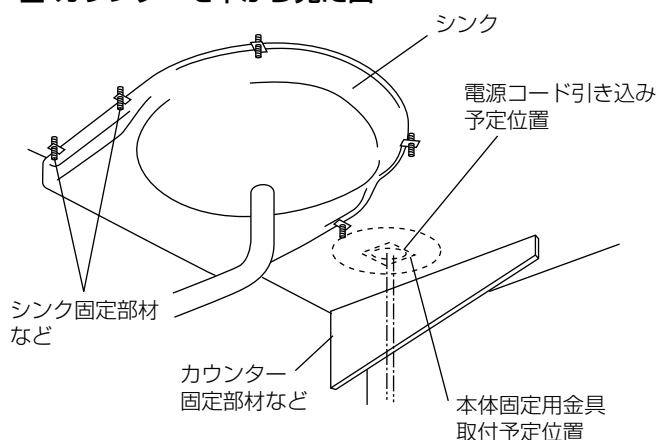
シンク外周をステンレスなどのフレームで囲っている。

■ アンダーカウンター式

シンクがカウンターの下※に取付けてある。

※アンダーカウンター式はカウンター下側にシンクがありますので、穴あけ時はシンクに傷を付けないよう注意してください。
※オーバーカウンター式はヘリが20mmより高いシンクには取付けできません。

取付位置の確認

2 カウンター下の確認

■ カウンターを下から見た図

取付位置のカウンター下にシンク、固定部材などの器具がないか確認する。

- カウンター固定板やカウンター方式によってカウンター下器具のシンク形状や固定部材位置がそれぞれ異なります。

ご注意

- **シンクの外形とカウンター固定部材の位置を必ず確認してください。**

3 カウンター下器具の転写

■ カウンターを上から見た図

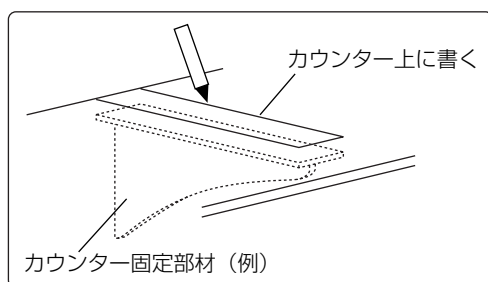
カウンター上に書く

カウンター固定部材（例）

シンク

位置がわかるように
鉛筆などで書く

本体取付
予定位置

位置がわかるように
鉛筆などで書く

カウンター下の状態を、カウンター上へ転写する。

- 器具がある場合はまずカウンター下で壁などからの位置を計り、カウンター上に鉛筆など後で消せるものでカウンター下の器具の位置を書きます。

■ 転写位置

取付けイメージ

転写位置

①シンク外形

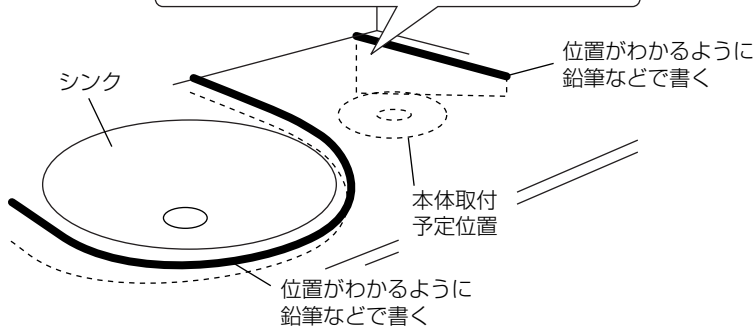
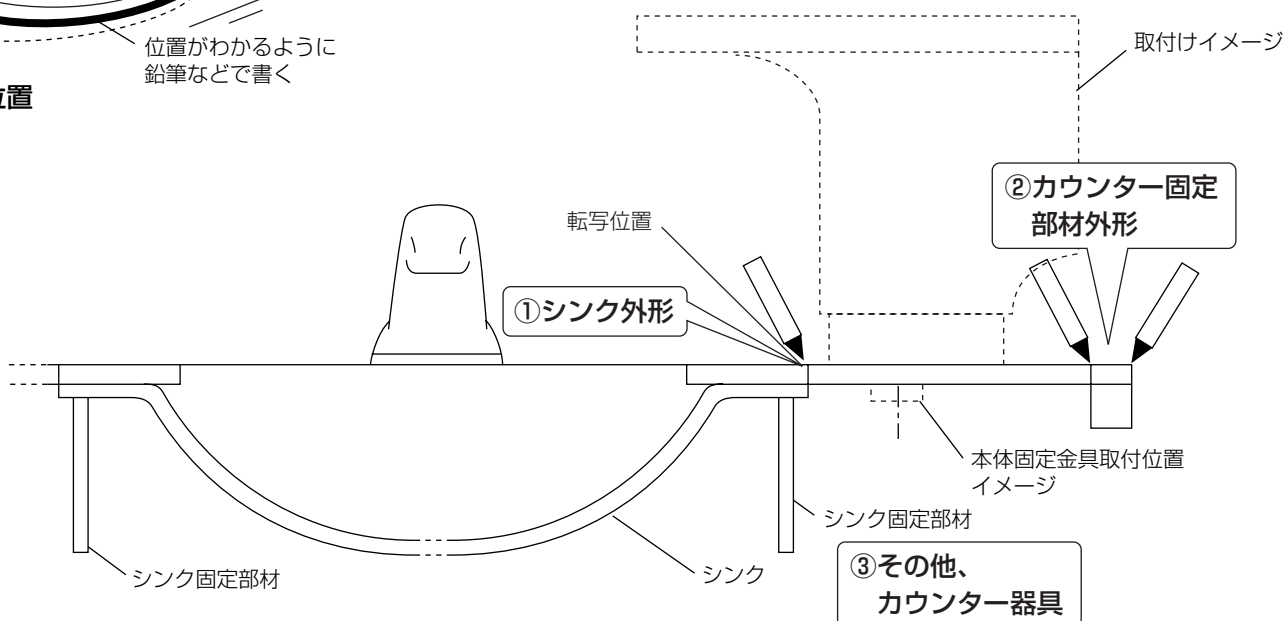
②カウンター固定
部材外形

本体固定金具取付位置
イメージ

シンク固定部材

シンク固定部材

シンク

③その他、
カウンター器具

4 型紙の位置決め

■ 位置決めの手順

1.型紙の準備

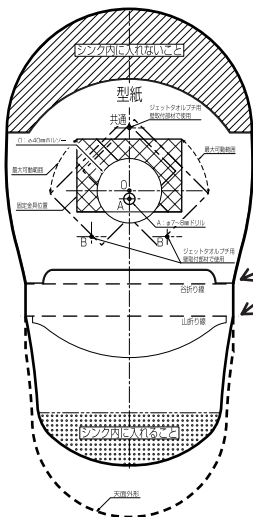
a 型紙の準備と見かた P7

2.設置位置の確認

（1）吸気口位置の確認
（2）電源コード引き込み穴、本体固定金具取付位置の確認
（3）シンクから本体までの距離の確認

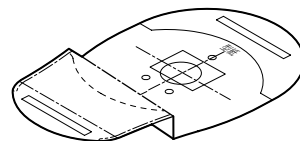
■ 位置決めの手順　1.型紙の準備

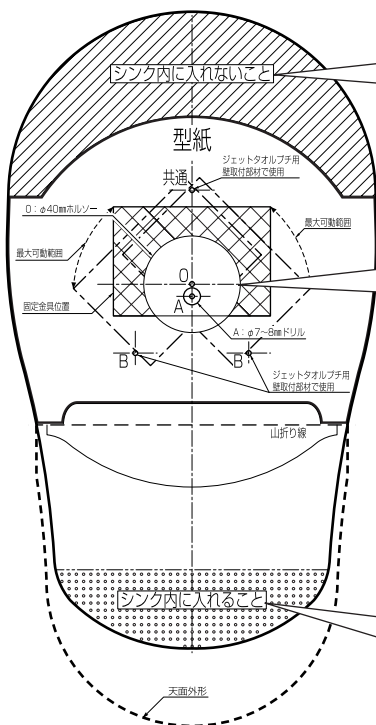
a 型紙の準備と見かた

■ 型紙

■ 型紙の折り線を折る。

ヘリを避けるための折り線があります。谷折り線と山折り線を直角に折ります。

※かならず折り曲げてご使用ください。

型紙を折った図

■ 位置決めの手順　2.設置位置の確認

（型紙を折った図）

（1）吸気口位置の確認

- 製品背面側の斜線部は吸気口となります。
- 製品背面側の斜線部にシンクが入らないように配置してください。

ご注意

- **吸気口がシンクに入りますと、本体内部に水を吸い込み、故障の原因となります。**

（2）電源コード引き込み穴、本体固定用ネジ穴、本体固定金具取付位置の確認

- 設置方法によってカウンターに電源コード引き込み穴または本体固定用ネジ穴をあけます。
製品は本体固定金具を使ってネジ止めします。

ご注意

- **誤った位置に穴をあけると、シンクやカウンター下側の器具を傷つけるおそれがあります。**

b 本体固定金具取付位置の例 P8

（3）シンクから本体までの距離の確認

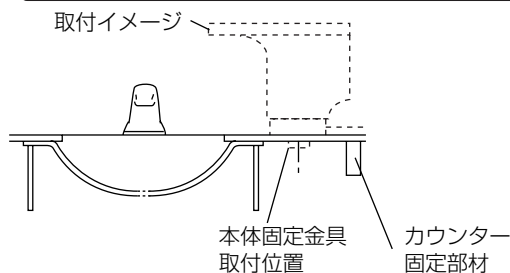
- 手から飛散した水滴をシンクに回収するように距離を調節します。
また製品がシンクに乗り上げないように注意してください。

ご注意

- **製品がシンクに乗り上げますと、本体とカウンターの隙間に水が浸入し、ネジが腐食すると製品が転倒するおそれがあります。**

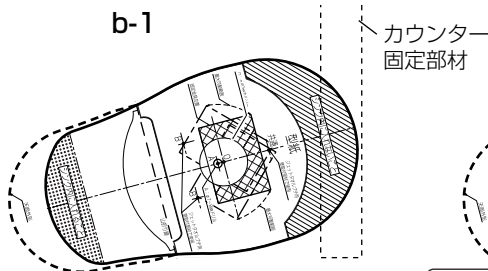
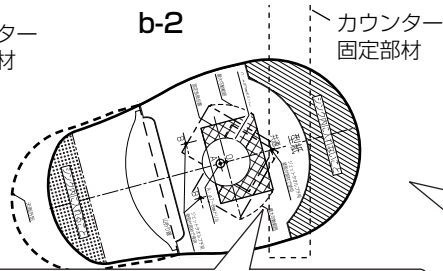
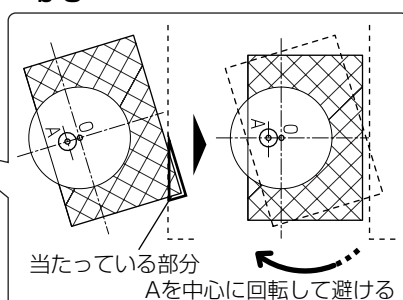
c シンクから本体までの距離 P8

■ 位置決めの手順　2.設置位置の確認

b 本体固定金具取付位置の例

■ カウンター下器具を避けて設置する。

- 下図（b-1）のように、本体固定金具取付位置（型紙の▨）がカウンターの下側にある器具を避けるように設置してください。
- 下図（b-2）のように、本体固定金具取付位置（型紙の▨）がカウンター下側の器具に当たる場合は、下図（b-3）のように付属の固定金具をAを中心として45°の範囲で回転させることができ、ある程度は当たらないように避けることができます。（型紙の最大可動範囲 ------- 破線部）それでもカウンターの下側にある器具に当たる場合は取付けできません。
- 本体固定金具位置の決定には、a.吸気口位置とc.シンクから本体までの距離の確認も同時に行ってください。

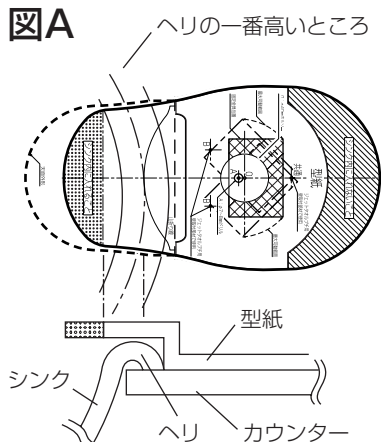
b-1　カウンター固定部材

b-2　カウンター固定部材

b-3

c シンクから本体までの距離

■ シンクから本体までの距離を調節する。

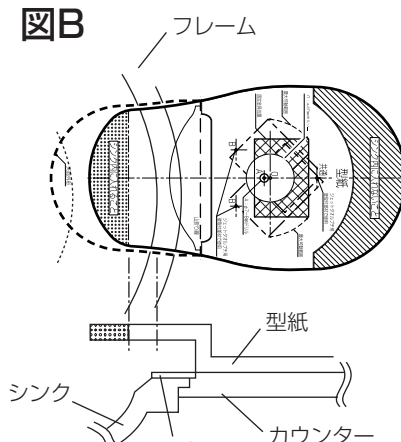
- 「シンク内に入れる事」（型紙の ▒部分）を次の位置に配置してください。

■ オーバーカウンター式

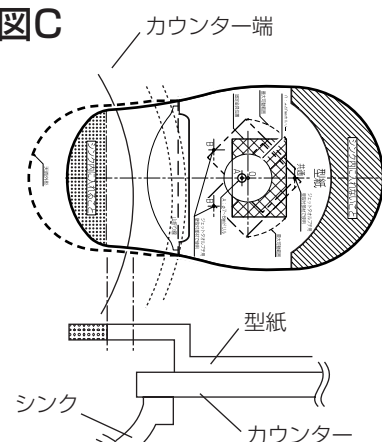
図A

ヘリの一番高い位置より内側

※ヘリの高さが20mmより高いシンクには取付けできません。

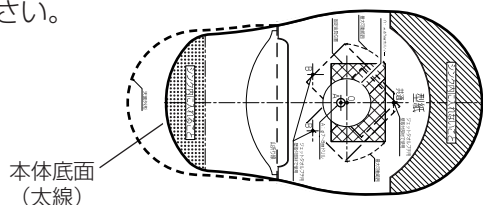
■ フレーム式

図B

フレームより内側

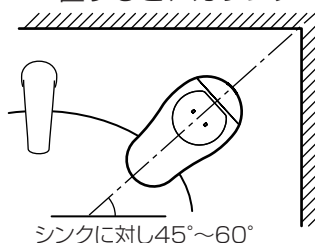
■ アンダーカウンター式

図C

カウンター端より内側

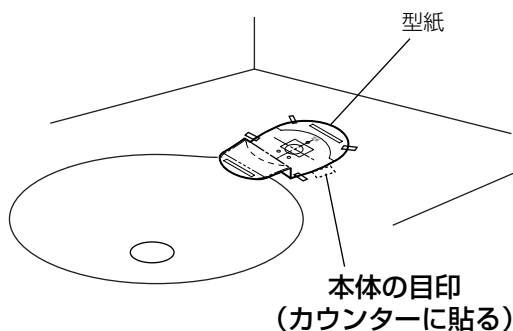
■ 本体がシンクに乗り上げていないことを確認する。

- 型紙では、本体の底面を太線で示してあります。
- オーバーカウンター式ではヘリ、フレーム式ではフレームが太線部に入らないように注意してください。

■ 推奨取付け位置

シンクに対し、斜め奥側 45°～60° に配置する。

（本体正面に向けて手を入れられるような角度で設置すると、カウンターへの水はねを軽減できます）

※カウンターの下器具の配置によっては上図のように取付けられないことがあります。

5 本体固定用の穴をあける

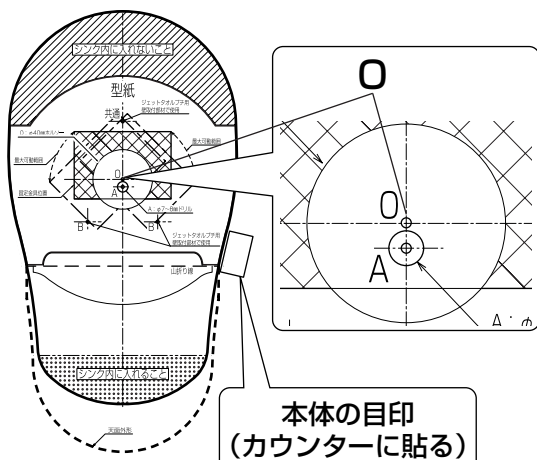
■カウンターを上から見た図

1 仮置きした型紙をテープで固定する。

2 型紙の外周指定位置に目印テープを貼る。
- 本体を設置するときに、製品固定位置がわかるように目印となるテープをカウンターに貼ります。
- 目印となるテープの貼付位置は、型紙外周太線部の外側（カウンター）です。（左図参照）

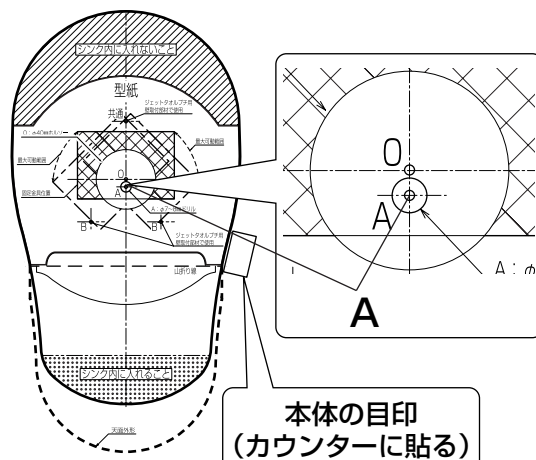
3 型紙のＯまたはＡのどちらかの位置に印をつけ、型紙をはずした後、穴をあける。

カウンター下で配線する場合

1.穴をあける中心の型紙Oの位置へポンチなどで印をつける。

2.ホルソー（φ40〜42）で電源コード引き込み穴をあける。

カウンター上で配線する場合

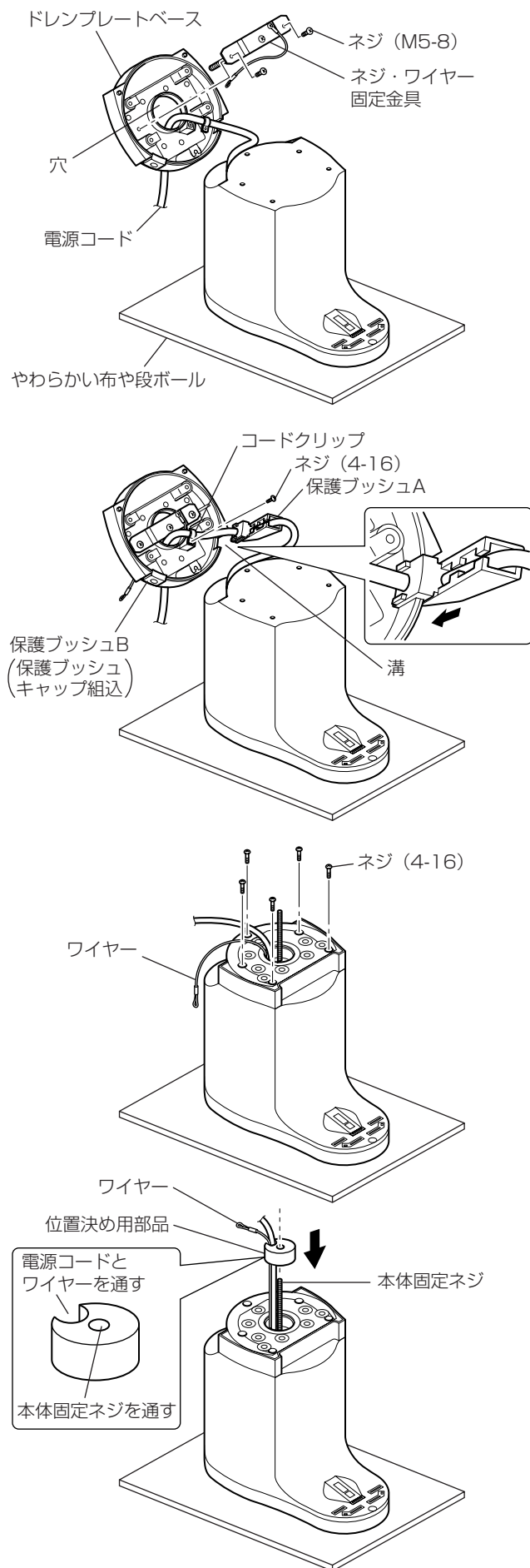
1.穴をあける中心の型紙Aの位置へポンチなどで印をつける。

2.ドリル（φ7〜8）で本体固定用ネジ穴をあける。

ご注意
- 電源コードやワイヤーが傷つかないようにあけた穴のバリ・エッジはきれいに取ってください。

4 カウンターを清掃する。
- 穴あけが終わったらカウンター上に書いたカウンター下の器具を示す線を消し、カウンターに傷がつかないようにカウンター上と下（庫内）を清掃してください。
- 本体の目印は本体取付けまで残しておいてください。

カウンター下で配線する場合 P10
カウンター上で配線する場合 P12

本体の取付け
カウンター下配線で設置する場合

6 ドレンプレートベースの取付け

ご注意

- **ドレンプレートベースの取付けの際は、本体の下にやわらかい布や段ボールなどを敷いて天面が傷つかないよう注意してください。**
- **取付けのネジは適切なトルクで締め付けてください。**
  不適切なトルクの締め付けは、取付け時のゆるみや接地面のすき間の発生、部品の破損の原因になります。ゆるみやすき間や部品の破損が原因で製品がカウンターから落下すると、本体内部に水が浸入し、本体の破損や漏電による感電の原因になります。

1 電源コードをドレンプレートベースの中心の穴に通す。

2 ドレンプレートベースにネジ・ワイヤー固定金具を付属のネジ（M5-8）2ヶ所で取付けて、ワイヤーをドレンプレートベースの中心の穴に通す。

- 締め付け基準トルク3.2N・m。

3 電源コードに取付けられたコードクリップを、付属のネジ（4-16）1ヶ所でドレンプレートベースに固定する。

- 締め付け基準トルク0.8N・m。
- 傷つき防止のためコードクリップに保護チューブを被せています。ネジ固定する前に保護チューブを取りはずしてください。

4 付属の保護ブッシュAを電源コードに通し、ドレンプレートベースの溝に取付ける。

- 電源コードはよじらずに取付けてください。
- 保護ブッシュBは保護ブッシュキャップが付いた状態で取りはずさずに、ドレンプレートベースに確実に取付けられているか確認してください。

5 ドレンプレートベースを付属のネジ（4-16）5ヶ所で本体に取付ける。

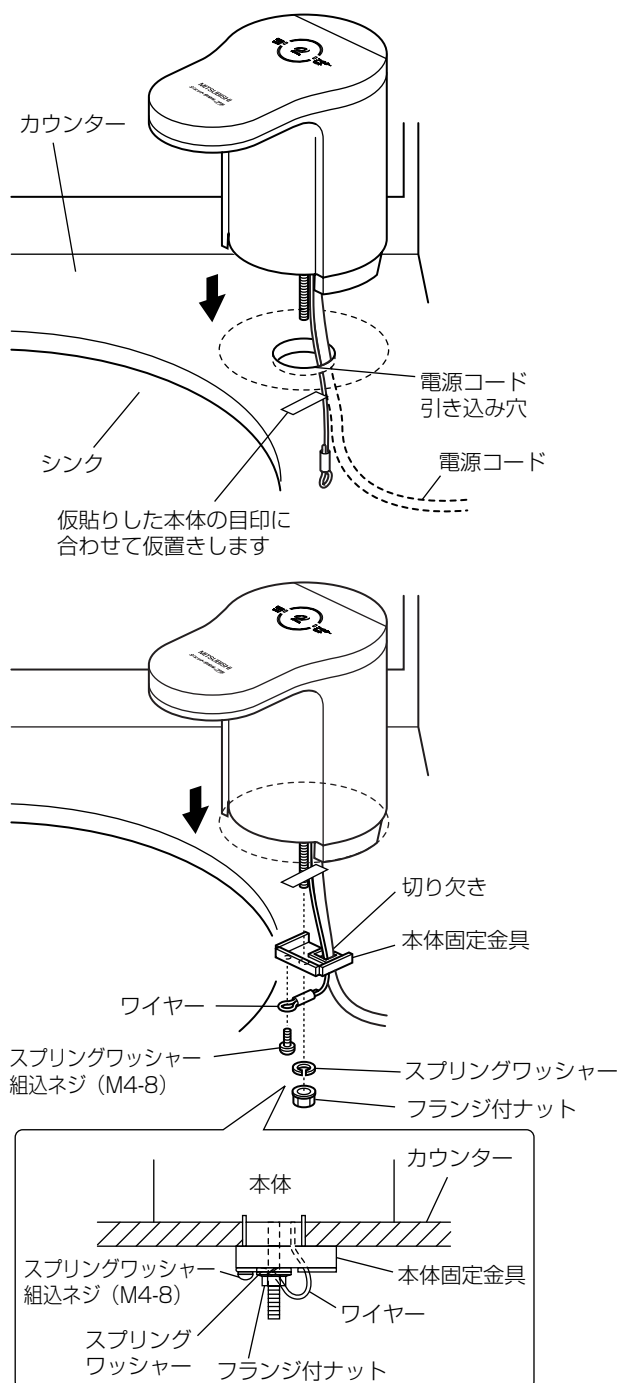
- 締め付け基準トルク0.8N・m。
- 保護ブッシュA、Bがはずれていないか確認してください。
- ドレンプレートベースはネジ５ヶ所で確実に固定してください。

ご注意

- **電源コードはドレンプレートベース内にたるみがなく、保護ブッシュがはずれていないか確認してください。**
- **ドレンプレートベースを本体に取付ける際、電源コードをかみ込まないよう注意してください。**
  電源コードをかみ込んだまま締め付けると電源コードが傷つき、漏電・感電の原因となります。

6 位置決め用部品の穴に、本体から出ているネジを通して、電源コード、ワイヤーを溝に通してドレンプレートベースに挿入する。

- 位置決め用部品はドレンプレートベースより約10mmほど飛び出します。

7 本体の固定

ご注意

- **取付けのネジは適切なトルクで締め付けてください。**
  不適切なトルクの締め付けは、取付け時のゆるみや接地面のすき間の発生、部品の破損の原因になります。ゆるみやすき間や部品の破損が原因で製品がカウンターから落下すると、本体内部に水が浸入し、本体の破損や漏電による感電の原因になります。

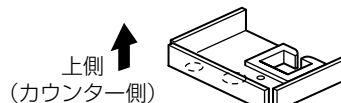
1 電源コード、ワイヤーと本体から出ているネジを引き込み穴へ通し、次に本体を仮貼りした本体の目印に合わせて仮置きする。

- 位置決め用部品は位置ずれ防止用です。本体がカウンターより浮いていたり、動くようであれば位置決め用部品の取付けを確認してから再度本体を仮置きしてください。

2 カウンター下に出ている電源コードとワイヤーを本体固定金具の切り欠きに通す。本体から出ているネジを本体固定金具の穴に通し、付属のスプリングワッシャーとフランジ付ナットで締め付ける。

- 締め付け基準トルク3.2N・m。
- ナットの締め付けすぎに注意してください。

ご注意

- **仮置きで本体をずらす時、本体底面のパッキンを傷めないよう注意してください。**
  パッキンを傷めた場合、本体の固定が不安定になるおそれがあります。また、パッキンがはがれてすき間ができると水が浸入して本体故障の原因になります。
- **本体固定金具は上下の向きに注意してください。**

- **本体固定金具は必ず付属のスプリングワッシャーとフランジ付ナットでしっかり締め付けてください。**
  締め付けがゆるいと本体ガタつきの原因になります。
- **本体固定金具取付けの際には、電源コードをかみ込まないように注意してください。**

3 ワイヤー先端の輪にスプリングワッシャー組込ネジ（M4-8）を通して本体固定金具に固定する。

- 締め付け基準トルク1.4N・m。

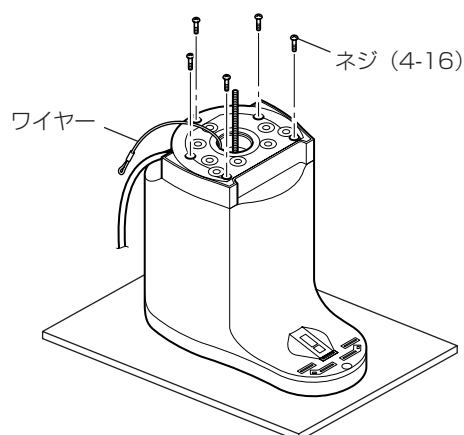
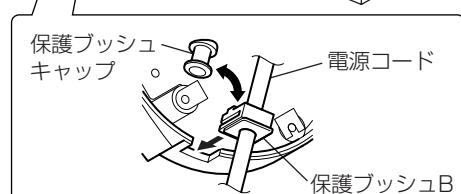
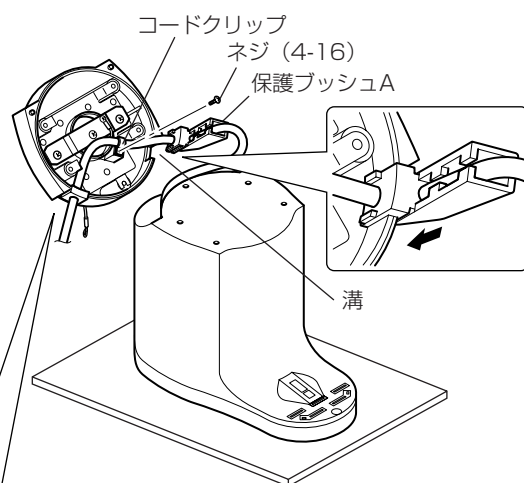
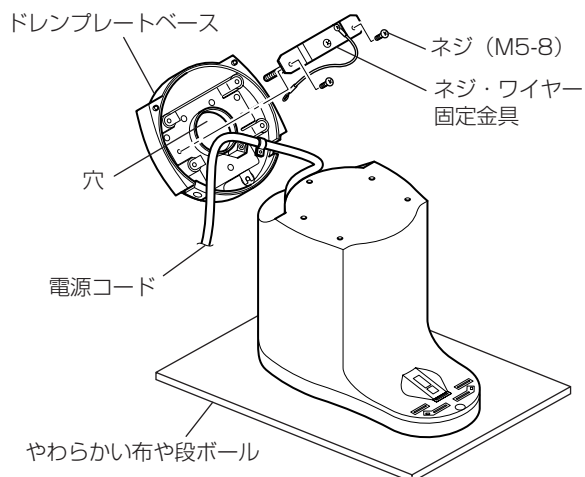
ご注意

- **ワイヤーを必ず固定しててください。**
  万が一本体固定金具がはずれた場合、本体のシンク内への落下を防止します。

4 取付けにガタつきがないか確認する。

- 取付けを確認してから本体の目印をはがします。

カウンター上配線で設置する場合

6 ドレンプレートベースの取付け

ご注意

- **ドレンプレートベースの取付けの際は、本体の下にやわらかい布や段ボールなどを敷いて天面が傷つかないよう注意してください。**
- **取付けのネジは適切なトルクで締め付けてください。**
  不適切なトルクの締め付けは、取付け時のゆるみや接地面のすき間の発生、部品の破損の原因になります。ゆるみやすき間や部品の破損が原因で製品がカウンターから落下すると、本体内部に水が浸入し、本体の破損や漏電による感電の原因になります。

1 ドレンプレートベースにネジ・ワイヤー固定金具を付属のネジ（M5-8）2ヶ所で取付けて、ワイヤーをドレンプレートベースの中心の穴に通す。

- 締め付け基準トルク3.2N・m。

2 電源コードに取付けられたコードクリップを、付属のネジ（4-16）1ヶ所でドレンプレートベースに固定する。

- 締め付け基準トルク0.8N・m。
- 傷つき防止のためコードクリップに保護チューブを被せています。ネジ固定する前に保護チューブを取りはずしてください。

3 付属の保護ブッシュAに電源コードを通し、ドレンプレートベースの溝に取付ける。

- 電源コードはよじらずに取付けてください。

4 保護ブッシュBをドレンプレートベースから取りはずし、保護ブッシュBに組込まれた保護ブッシュキャップを取りはずす。保護ブッシュBに電源コードを通し、ドレンプレートベースの元の位置に取付ける。

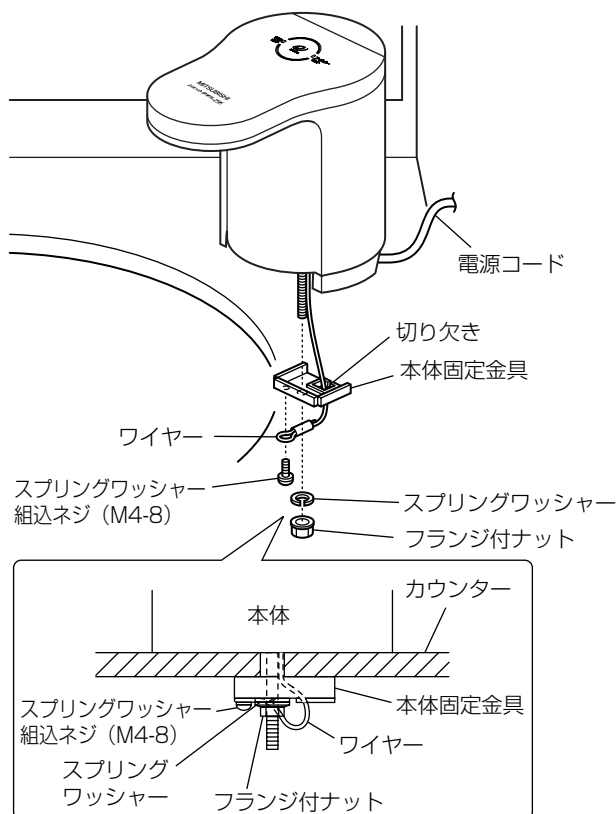
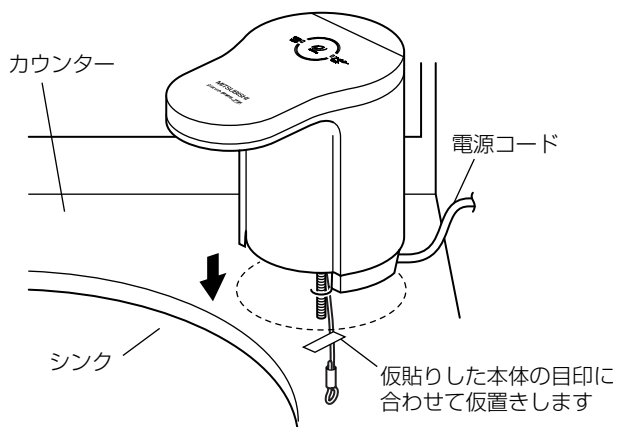
- 保護ブッシュキャップは使用しません。

5 ドレンプレートベースを付属のネジ（4-16）5ヶ所で本体に取付ける。

- 締め付け基準トルク0.8N・m。
- 保護ブッシュA、Bがはずれていないか確認してください。
- ドレンプレートベースはネジ５ヶ所で確実に固定してください。

ご注意

- **電源コードはドレンプレートベース内にたるみがなく、保護ブッシュがはずれていないか確認してください。**
- **ドレンプレートベースを本体に戻す際、電源コードをかみ込まないよう注意してください。**
  電源コードをかみ込んだまま締め付けると電源コードが傷つき、漏電・感電の原因となります。

7 本体の固定

ご注意

- **取付けのネジは適切なトルクで締め付けてください。**
  不適切なトルクの締め付けは、取付け時のゆるみや接地面のすき間の発生、部品の破損の原因になります。ゆるみやすき間や部品の破損が原因で製品がカウンターから落下すると、本体内部に水が浸入し、本体の破損や漏電による感電の原因になります。

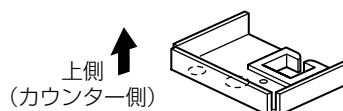
1 本体固定用の穴に、まずワイヤーを通し、次に本体から出ているネジを通して本体を仮貼りした本体の目印に合わせて仮置きする。

- 本体底面から出ているネジと、カウンターの本体固定ネジ穴を合わせます。
- 本体固定用の穴は狭いため、先にワイヤーを通してください。

2 カウンター下に出ているワイヤーを本体固定金具の切り欠きに通す。本体から出ているネジを本体固定金具の穴に通し、付属のスプリングワッシャーとフランジ付ナットで締め付ける。

- 締め付け基準トルク3.2N・m。
- ナットの締め付けすぎに注意してください。

ご注意

- **仮置きで本体をずらす時、本体底面のパッキンを傷めないよう注意してください。**
  パッキンを傷めた場合、本体の固定が不安定になるおそれがあります。また、パッキンがはがれてすき間ができると水が浸入して本体故障の原因になります。
- **本体固定金具は上下の向きに注意してください。**

- **本体固定金具は必ず付属のスプリングワッシャーとフランジ付ナットでしっかり締め付けてください。**
  締め付けがゆるいと本体ガタつきの原因になります。

3 ワイヤー先端の輪に付属のスプリングワッシャー組込ネジ（M4-8）を通して固定金具に固定する。

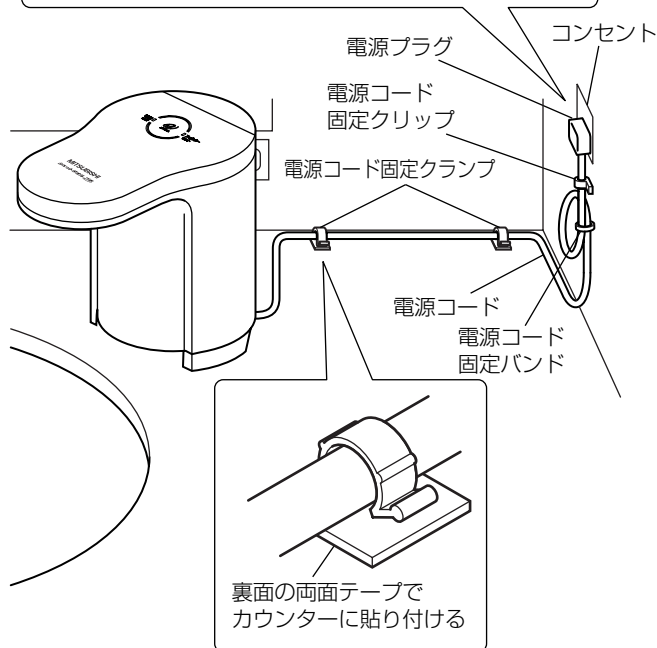
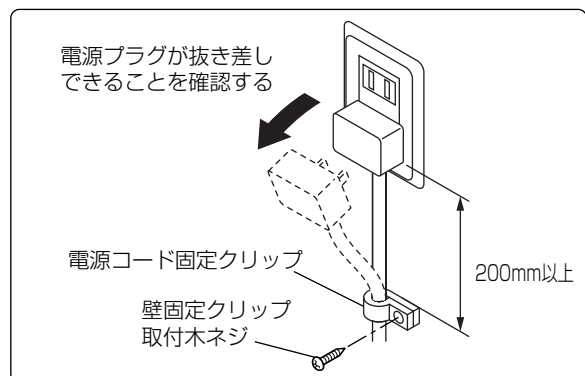
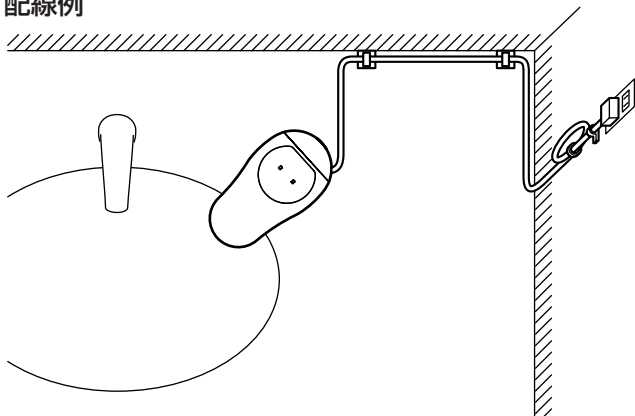
- 締め付け基準トルク1.4N・m。

ご注意

- **ワイヤーを必ず固定してください。**
  万が一フランジ付ナットがはずれた場合、本体がカウンターから落下することを防止します。

4 取付けにガタつきがないか確認する。

- 取付けを確認してから本体の目印をはがします。

● 配線例

電源コードの処理

1 配線例を参考に、市販のモールまたは付属の電源コード固定クランプで電源コードをカウンター奥側に配線する。

ご注意

- **電源コードは必ず奥側に配線して、あまった電源コードはたるまないようにしてください。**
  清掃時などに電源コードを引っ掛け、本体や電源プラグ端子部が破損するのを防止します。
- **電源コード固定クランプを取付ける場合、取付け前にかならずカウンターの汚れを中性洗剤で拭き取り、水拭きしてから洗剤や水が残らないように乾拭きしてください。**
- **電源コード固定クランプは使用環境、使用条件により両面テープがはがれる場合があります。**

2 電源コードをコンセント付近で固定する。

①コンセントから約200mm下の壁位置で電源コードを手で押さえ、電源プラグがコンセントに抜き差しできるか確認する。

②電源プラグが抜き差しできる位置が決まったら、印をつけて電源プラグをコンセントから抜く。

③電源コードに付属の電源コード壁固定クリップを通し、印の位置に電源コードを壁固定クリップ取付木ネジで壁に固定する。

- コンクリート壁に取付ける場合は適切な長さの市販の金属製プラグ(カールプラグ等)を使用して壁固定クリップを壁に取付けてください。
  その他の壁に取付ける場合は、それぞれの壁に適した方法で壁固定クリップを壁に取付けてください。

ご注意

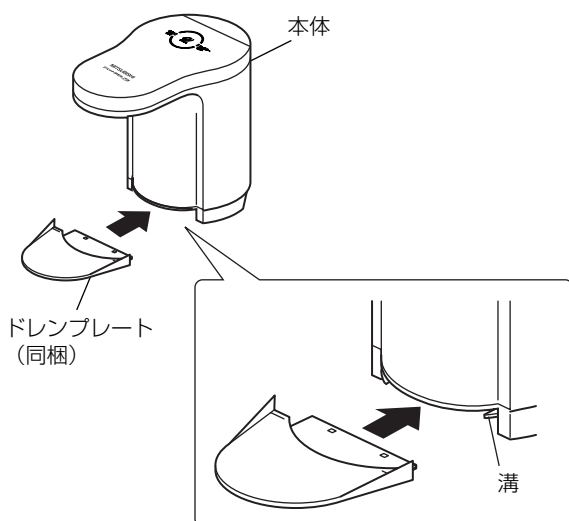
- **電源コードの壁固定は確実におこなってください。**
  清掃時などに電源コードを引っ掛け、本体や電源プラグ端子部が破損するのを防止します。
- **壁固定の際に壁中の電源線を傷つけないように注意してください。**
  電源コードが傷つくと漏電による感電やショートによる火災の原因となります。
- **電源プラグがコンセントに差したままで壁固定クリップを取付けないでください。**
  誤って電源コードを傷つけると、感電するおそれがあります。

3 電源コードがたるむほどあまった場合は、付属の電源コード固定バンドで束ねる。

- カウンター上に電源コードのたるみが残らないようにしてください。

ご注意

- **あまった電源コードを本体の給気口に入れないでください。**
  電源コードにストレスがかかったり、吸気口がふさがれると本体の故障や電源コードが熱をもつと発火の原因になります。
- **あまった電源コードをカウンター上に放置しないでください。**
  清掃時などに電源コードを引っ掛け、本体や電源端子部が破損するのを防止します。

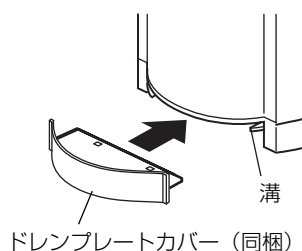
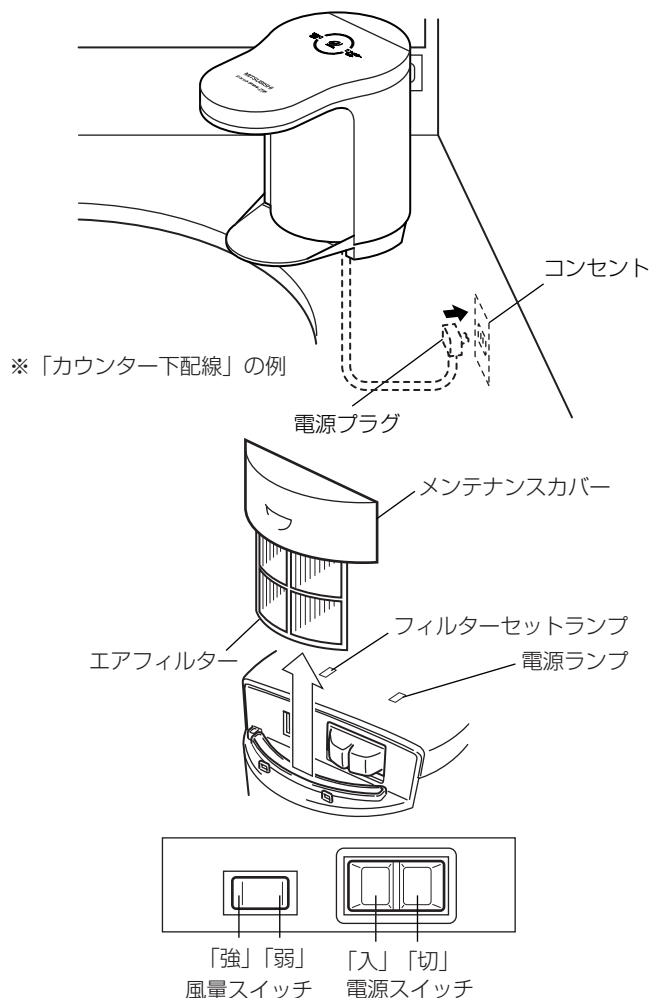
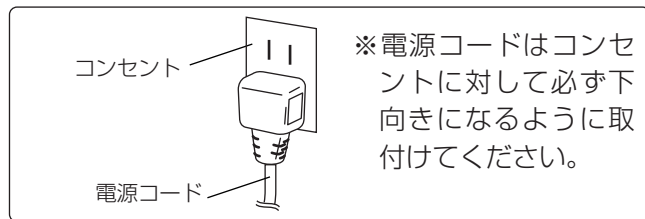
8 ドレンプレートの取付け

ドレンプレートを本体に取付ける。

- ドレンプレートは本体の溝にあわせ、奥までしっかり差し込んでください。
- ドレンプレートが本体に確実に取付けられたか確認してください。
- シンクからの水飛散防止のためドレンプレートを取付けてください。ドレンプレートカバーを取付ける場合は、アンダーカウンター式で、水飛散がないことを確認してください。

アンダーカウンター式 P5

ご注意

- **ドレンプレートが取付けられていない場合は、蛇口から水が流れている時やシンクに水が溜まっている時に使用すると、水飛散するおそれがあります。またシンクに湯を溜めると湯気を検知して製品が誤動作し、シンクに溜まった湯が飛散するおそれがあります。**

- ドレンプレートを取付けない場合は、ドレンプレートカバーを取付けてください。

9 電源プラグの差し込み

1 電源プラグを差し込む。

2 メンテナンスカバーを引き上げ、電源スイッチを押し電源を入れる。

3 元通りメンテナンスカバーを差し込み、電源ランプが点灯し、フィルターセットランプが消灯していることを確認する。

4 試運転を行う。

- メンテナンスカバーが確実に取付けられていることを確認してから試運転を行ってください。

※メンテナンスカバーが確実に入っていないと運転しません。

ご注意

- **電源プラグは、コードが下向きに出るよう、コンセントに奥まで確実に差し込む。**
  上方に出すと、プラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火するおそれがあります。
- **設置後にキャビネット前面の開閉が困難、または開閉ができなくなるような固定をしない。**
  製品を修理する場合に取りはずしができなくなります。

試運転

■取付工事終了後、次の手順で確認してください。

	手順	確認内容	チェック
1	電源電圧を確認する。	交流100Vを使用していますか？	
2	電源プラグをコンセントに差し込み、漏電しゃ断器を「入」にする。	電源プラグは確実に差し込まれていますか？	
3	メンテナンスカバーを引き上げ、電源スイッチを「入」にする。	電源ランプは点灯していますか？	
4	メンテナンスカバーを確実に差し込む。 手を入れて乾かす。	フィルターセットランプは消灯していますか？ 風が吹き出していますか？	
5	メンテナンスカバーを引き上げ、風量スイッチを切換えてメンテナンスカバーを確実に差し込む。	フィルターセットランプはしていますか？ 風量が変わりますか？	
6	取付けの再確認、運転音の確認を行う。	本体固定金具の上下方向は正しく取付けられていますか？ P11,13 ナットは確実に締め付けられていますか？ P11,13 振動・異常音はありませんか？	

※手を入れた状態でメンテナンスカバーを引き上げない。
※電源ランプが点滅状態のときは、いたずら防止タイマーが作動しています。電源スイッチをいったん「切」にし、1秒以上後に再度「入」にしてから試運転を行ってください。

中津川製作所 〒508−8666 岐阜県中津川市駒場町１番３号